

案

「飯田ひろば」実現のための基本方針



令和7年11月27日

飯田市

目次

1	はじめに	1
2	経過	2
3	基本理念	5
4	飯田ひろばの概念	6
5	整備方針	7
6	整備方針の考え方	7
7	分散整備する機能と場所	8
8	飯田ひろばを支える機能の整備手順	9
9	飯田文化会館改修基本計画	10

1 はじめに

飯田市では、開館から50年以上が経過した飯田文化会館の老朽化が進んでいること等の課題があることから、将来を見据えた新しい飯田文化会館の整備に向けて、新しい飯田文化会館の在り方を検討してきました。

令和4年6月に「新文化会館整備検討委員会」を設置し、各分野や飯田文化会館利用団体を代表する13名の市民委員、3名の公募委員と3名の学識委員を合わせて19名の委員構成によって、基本構想の検討を開始しました。

この整備検討委員会では、新しい飯田文化会館が目指す「基本理念」と、その実現に向けた「基本方針」を「基本構想」として示そうと検討を重ねてきました。「飯田の文化とは何か」の議論から始め、これまでの飯田の文化活動で大切にしてきた考え方や「飯田らしさ」などについて、ワークショップの手法を用いて意見交換を重ねてきました。また、学識経験者を講師に招いて学習会を開催し、将来を見据えた公立劇場の役割を検討していく際に、「ひと」を育み「まち」を育み「活力」を生み出すという視点に着目することを学びました。

これらを受け、飯田市市民憲章や飯田市自治基本条例に明記のある「美しい自然に恵まれ、地域の風土に根付いた伝統や文化に支えられた人情豊かなまち」や「特色のある地域活動やまちづくりの実践」、「まちづくりに進んで参加する『ムトス』の精神を、次の時代へ確実に引き継ぐ」など、市民としての心構えと理念を尊重し、「みんなが集い、創り、伝える、感動の飯田ひろば」を新しい飯田文化会館の基本理念として定め、「新しい文化会館の整備に関する基本構想」を策定しました。

飯田文化会館は、基本構想に掲げた基本理念を実現するため、「集う」「観る」「創る」「伝える」「育む」という5つの基本方針に基づいた事業を推進するとともに、文化芸術活動の場としてより多くの皆さんに親しんでいただけるよう快適な施設環境を整備・維持し、飯田市の文化芸術の振興に努めてまいります。



2 経過

□現在の飯田文化会館

時 期	内 容
昭和31年	1市7村合併の際、新都市建設計画に市公民館の増改築が計画されたことを契機に、飯田文化会館建設の検討を開始
昭和39・40年	起債申請が不許可となり建設断念
昭和42・43年	準備委員会において、2箇所（扇町公園・市公民館）の建設候補地から建設地を確定できず建設断念
昭和45年	第3の候補地である中央道沿線の高羽町（現在地）へ建設することを決定 ※2,000席（移動席を含む）のホールとして計画を進めたが、建設費高騰及び起債条件（建設期間2年）により1,500席に縮小。最終的に1,400席となる
昭和47年4月	竣工

□新文化会館整備の検討

時 期	内 容
平成26年	公共施設等総合管理計画策定に向けて、建替えの検討を開始
令和2年	新文化会館の在り方と新文化会館を整備するまでの3ホールの在り方に基づき検討を進める
令和4年	新文化会館整備検討委員会を設置し、基本構想の検討を開始 ※以降、会議を11回開催し検討を重ねる
令和6年3月	「新しい文化会館の整備に関する基本構想」を策定
令和6年8月	専門家会議を設置し、基本計画の検討を開始 ・「建設費高騰」「広大な用地の必要性」「リニア中央新幹線工期延長に伴う市の長期財政見通しの見直し」という課題 ・「機能を分散して段階的に整備する可能性を含めた検討を」という意見を得る
令和6年11月	第2回専門家会議 ・機能の整備（一体・分散）の優位点や課題について意見交換
令和6年12月	第12回新文化会館整備検討委員会 ・機能を分散して整備するとした場合、基本構想の実現にどのように影響するか意見交換 ※基本構想の具現化、「飯田ひろば」としての「集う」機能の実現、利用しやすい施設づくりを追求、機能の一体整備に加えて機能を分散して段階的に整備する方法を含めた検討を進める



□建物と整備場所候補に関する検討

◇建物

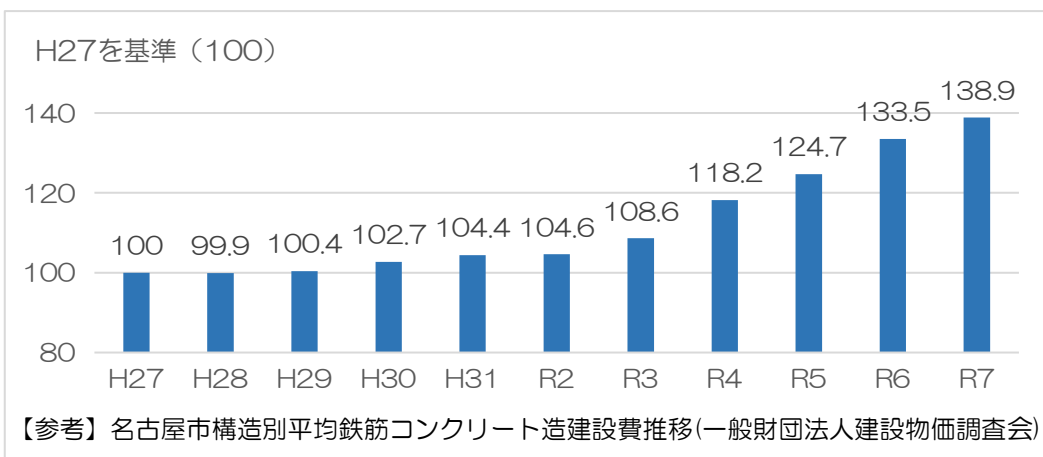
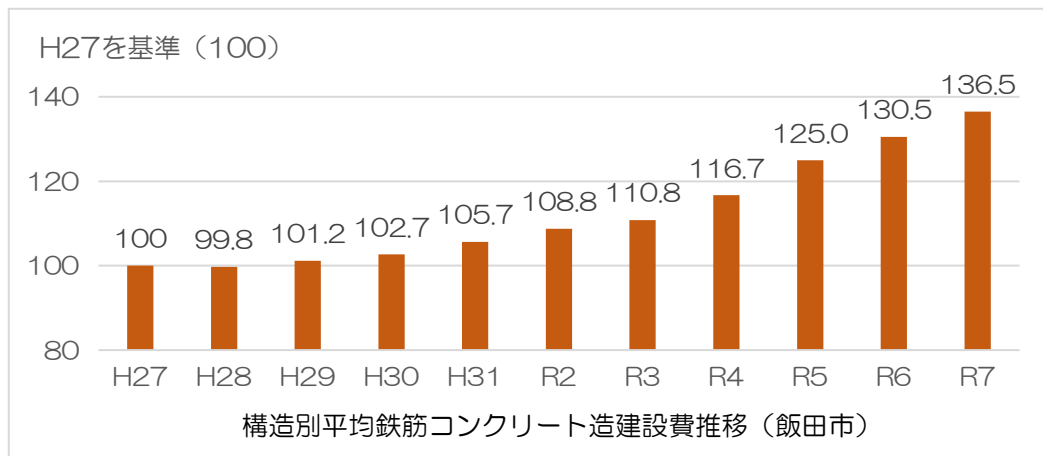
○整備方法

方法	特 性
一体 整備	<ul style="list-style-type: none"> • 複数の機能があり、さまざまな利用者が集うことが想定される • 周辺地域のにぎわいが集中し、局所的になる • 共通エリアの整備が最小限になり、施設保守等のコストは低くなる • 広大な用地が必要になり、用地確保が難しく、立地の選択肢が限られる • 管理運営の連携、人員体制の確保は容易 • 一括整備のため、一時的な財政負担が大きい
分散 整備	<ul style="list-style-type: none"> • より多くの方が文化活動に触れることができる • 周辺施設のにぎわいが分散し、広域的になる • 共通エリアの整備が各施設に必要なになる • 用地の確保が比較的容易であり、施設整備の柔軟性が高い • 管理運営の連携、人員体制の確保について検討が必要 • 施設の整備時期をずらすことで、財政負担を平準化できる

○建設費の推移

過去10年間で建設費は上昇傾向にあり、特に令和2年以降に資材価格の高騰や労務費の上昇が加速しました。平成27年を基準に考えると、令和7年は1.36倍となっています。

建設資材高騰は、令和7年以降も続く可能性が高いとみられており、今後も上昇が続くと予測されています。



◇整備場所の候補

(詳細：第1回、第2回専門家会議資料)

	中心拠点	中心拠点近郊	広域交通拠点
「集う」の実現性	交通の便が良く、日常的な立ち寄りにも期待できる 高校生等、公共交通機関利用の通勤通学者も立ち寄れる	舞台芸術に関心がない方の日常的な立ち寄りには工夫が必要となる 高校生等、公共交通機関利用の通勤通学者も立ち寄れる	リニア駅前広場と連携した空間にすることによって、舞台芸術に関心がない方の日常的な立ち寄りも期待できる 今後の交通インフラ整備によって高校生等の立ち寄りが期待できる
交通インフラ	インフラが整っており、交通弱者のアクセスが最も容易	近くにインフラがあり、交通弱者のアクセスが容易	今後の整備に期待できる
中心市街地との距離	区域内に位置し、利便性が高い	中心市街地に近い	遠いが、今後の交通網の整備が期待できる
広域利用の可能性	今後の交通網の整備に期待できる	中心市街地が徒歩圏内であるため、リニア駅からの交通網を利用できる	広域地域とリニア駅を結ぶ交通網が整備されれば、広域の利用も期待できる
舞台芸術の活動が人目につくか	人目につきやすく、それらの情報発信につながる	人目につきやすく、それらの情報発信につながる	リニア利用者の人目につく可能性もあり、飯田の文化活動の情報発信につながる
周辺地域への相乗効果	周辺地域の発展に寄与できる可能性あり	自家用車での来館者が多いことが予想され、周辺地域での消費行動へは工夫が必要となる	幹線道路沿線の店舗の利用が予想され、周辺地域の発展に寄与できる可能性あり
景観・静寂性・社会影響	景観を確保した整備が必要 騒音防止への配慮が必要となる イベント時は駐車場利用に配慮が必要	住宅へ圧迫感のない景観になるようエントランスや搬出入口は住宅に面しないよう配慮が必要となる 騒音防止への配慮が必要となる	高さ制限がある 夜間に多数の車の出入りや搬出入作業が発生しても影響が少ないと思われる
移転補償の課題	地権者が非常に多い	地権者が多い	地権者が少ない
用地補償費※	約36億円	約15億円	約8.5億円

※2ha程度の用地を想定して、令和6年度に各候補地で用地取得と移転補償の費用を合算した金額

□現飯田文化会館の施設・運営に関する最近の出来事

時 期	内 容
令和7年4月	ホール空調設備故障（代替機器を設置し応急的復旧）
5月	ホール舞台技術管理業務受託者のうち1者休止
6月	講習室の空調故障（機器更新）※同時期更新の機器を他室で使用中
7月	屋上防水劣化により講習室天井の一部落下（応急修繕済） ホール音響操作卓に不具合発生（修繕済）
8月	ホール照明操作卓に不具合発生（修繕済）

※機能不全となる前に舞台・空調・受変電・給排水等、設備全般の更新が不可欠な状況

3 基本理念

「新しい文化会館の整備に関する基本構想」で生み出されたものを、これからの飯田文化会館の基本理念とします。

基本理念

市民とともに、文化を育み

「みんなが集い、創り、伝える、感動の飯田ひろば」
の実現を目指します

基本理念が描いているこれからの飯田文化会館

- 誰もが日常的に集まって、気軽に交流できる開かれた飯田文化会館
- さまざまな方がつながり合い、飯田ならではの舞台芸術を創造し、発信していく場所
- 伝統や外の文化を取り入れ独自の文化を生み出す、飯田の特長を後世に伝える場所
- 非日常の舞台に立って、自分の存在や思いを他者に伝える特別な場所
- 舞台芸術活動を担う人を掘り起こし、世代を超えて伝えていく場所

基本理念を実現するための基本方針

「集う」

さまざまな方が日常的にも集い、交流できる場を充実させます

「観る」

心が満たされる鑑賞の場を確保します

「創る」

飯田ならではの舞台芸術を創造し、支援します

「伝える」

舞台芸術活動を促進し、次世代へ伝えます

「育む」

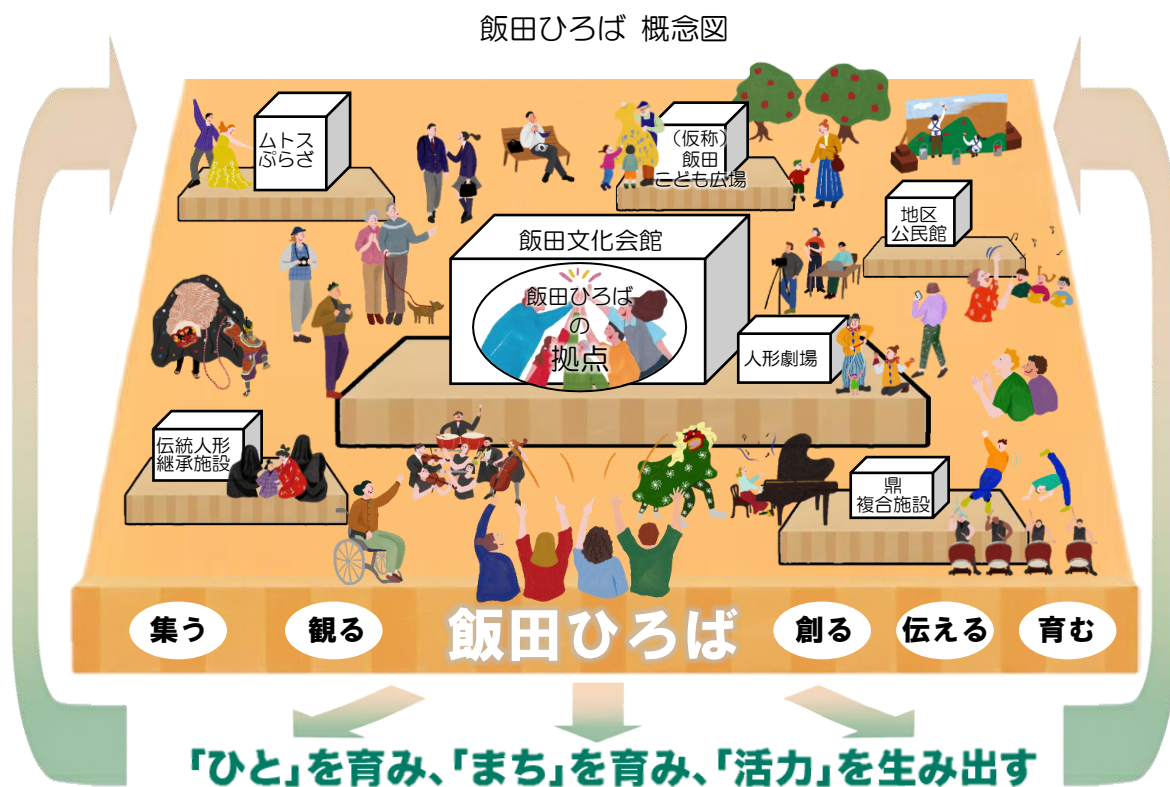
舞台芸術の演じ手や支え手を発掘し、育成します

4 飯田ひろばの概念

「飯田ひろば」とは、人々が自然と集い、楽しさや喜びを共有でき、新しい動きが起きる「空間」です。

飯田文化会館を拠点として、市内に分散している文化施設においても文化活動や舞台芸術活動が行われます。市内のあらゆる場でこのような活動が行われている飯田市全体が「飯田ひろば」です。

人々は舞台芸術や文化活動に触れ楽しみや喜びを感じながら生活し、市内では誰もが集い、創り、伝える活動がいつも繰り広げられ、ワクワク！ドキドキ！が生まれ続けます。



5 整備方針

- 「まち」全体で「飯田ひろば」が実現するように機能を分散整備する。
- 文化活動を止めないようにまず現飯田文化会館の改修に着手し、続いて小ホール→中ホール→大ホールと段階的に整備していく。
- 限られた財源を効果的に活用するため、複合化※を基本に施設整備を行う。

※異なる目的や機能を持つ複数の施設を一つの敷地や建物に集約させること

6 整備方針の考え方

- ◇ 「飯田ひろば」を「館」単体ではなく「まち」全体で実現する。
 - 「飯田ひろば」を1つの館で実現しようとする場合、次のような課題がある。
 - ・ 昨今の建設費の急騰により多額の財政負担が見込まれる。
 - ・ 広大な敷地を必要とし、適地が限られる。
 - 分散整備は、施設それぞれに特色や機能を持たせることによって、多様性・発展性が期待できる。
 - ・ 利用者の間口や選択肢を増やすことができる。
 - ・ 市内複数の箇所において、にぎわいが施設周辺へにじみ出ることが魅力である。
 - このため、「飯田ひろば」を実現するために必要な機能については、「1つの館」で整備するのではなく、複数の施設に分散して整備することとし、「まち」全体で「飯田ひろば」を実現することを目指す。
 - 現飯田文化会館は令和7年以降、経年劣化による施設設備の不具合が多発している。文化活動継続のために、その改修に着手し、続いて各ホールを段階的に整備していく。
- ◇ 必要な視点
 - 施設（機能）を分散して整備する場合、財政負担の平準化は図られるが、整備費用の総額は増加する可能性が高い。このため、整備するそれぞれの施設は、複合化を基本に検討する。
 - 「飯田ひろば」を「まち」全体で実現するためには、整備された拠点間を結ぶ交通機能が不可欠である。施設整備と併せて、拠点間を結ぶ交通機能（公共交通ほか）の検討も必要となる。

7 分散整備する機能と場所

① 小ホール

- 小ホールの整備場所は、以下の理由から旧飯田市公民館跡地が最適と考える。
 - ・飯田市立動物園～りんご並木～ゆいぎっず～人形時計塔～桜並木という動線と、ムトスぷらざ～中央通り～中央図書館・美術博物館という動線の結節点にあり、ほかの拠点との相乗効果が高い。
 - ・「飯田ひろば」の「観る」機能としても、施設利用前後の飲食店利用ニーズとの親和性が高い。
- 「飯田ひろば」の「集う」機能のうち、こども・親子が日常的に集う機能は、これまで乏しかった機能であり「小ホール」において充実させたい機能である。
- 雨の日や猛暑の日でも、こどもが遊べる場所を整備してほしいという強い要望が子育て世代から寄せられている。
- これらを併せて実現するための複合施設として「（仮称）飯田こども広場」の整備を検討する。

② 中ホール

- 県文化センター周辺は、飯田OIDE長姫高校及び下伊那農業高校とJR飯田線県駅とを結ぶ動線上に位置し、「飯田ひろば」の「集う」機能のうち、中高生を中心とした若い世代の日常的な利用を拡大するには適地である。
- 「県複合施設」の構想があるため、その整備構想を整理する中で、「飯田ひろば」の「中ホール」相当の機能を取り入れることを検討する。

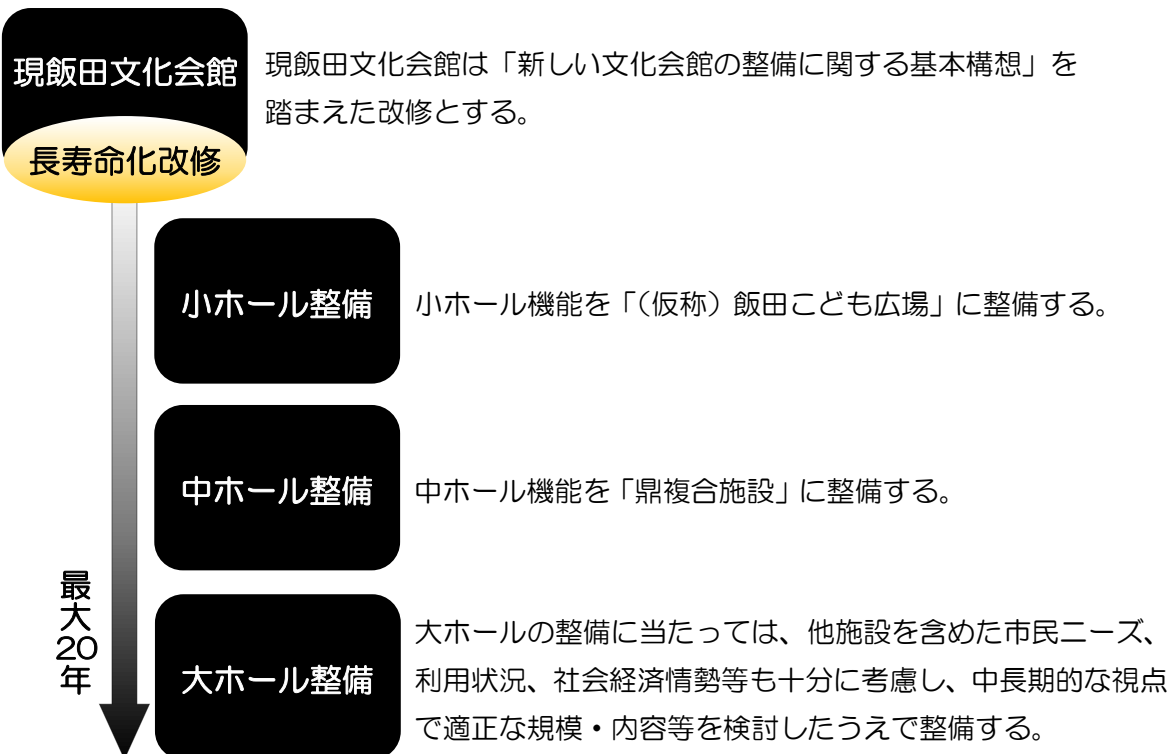
③ 大ホール

- 当面は、現飯田文化会館ホールの改修によりその機能を補う。耐震改修済みであるが、設備の改修が必要となる。席数を減じて快適性を向上させるかどうかは、財政負担も含め、早急に検討する（トイレの改修も併せて検討する）。
- 改修して延命使用する間に、「大ホール」の整備の在り方を再検討する。
- 整備場所の候補として考えるのは、現時点において、リニア駅周辺である。その理由は、以下のとおり。
 - ・「大ホール」整備に必要な敷地面積が確保できる。また、リニア駅前広場と駐車場の共用が可能である。
 - ・「飯田ひろば」の「集う」機能として、リニア駅前広場との相乗効果が期待できる。
 - ・「飯田ひろば」の「観る」「伝える」機能として、リニアの利用により、演者や観客のアクセス利便性が高い。

分散整備する機能と所要室の概要

機能	施設	(仮称) 飯田こども広場	鼎複合施設	飯田文化会館
	主な世代	こども	中高生	全世代
鑑賞	小ホール	100人程度		
	中ホール		500人程度	
	大ホール			1,000人程度
創造 支援	リハーサル室			●
	スタジオ(防音)【大】			●
	スタジオ(防音)【小】		●	●
	スタジオ(フローリング)【大】			●
	スタジオ(フローリング)【小】		●	
	スタジオ(人形劇)	●		
	スタジオ(和室)		●	
	スタジオ(アトリエ)			●
	多目的室【大】			●
	多目的室【小】	●	●	
交流 促進	オープンスペース【大】			●
	オープンスペース【小】	●	●	

8 飯田ひろばを支える機能の整備手順



9 飯田文化会館改修基本計画

◇基本的な考え方

- ・「新しい文化会館の整備に関する基本構想」を踏まえた改修とする。
- ・市民に親しまれ、舞台芸術活動の拠点と交流の場とするため施設機能を拡充する。
- ・バリアフリー、ユニバーサルデザインに配慮した誰もが使いやすい施設とする。
- ・可能な限り多くの駐車スペースを確保する。
- ・継続して舞台芸術活動を実施するため、休館期間を最小限とする。

◇建物に関する考え方

- ・市民に親しみやすく快適で安全なものとする。
- ・目標使用年数は、高額設備更新周期を考慮し、73年（残年数20年）とする。
- ・財政状況が厳しい状況にあることから、効率的かつ効果的な改修工事を実施し、建物の長寿命化及びランニングコストの縮減を図る。
- ・改修工事は、稼動しながらの工事となるため、安全に施工できる計画とする。

◇整備概要

- ・実施済工事

R2 特定天井耐震補強工事	R3 躯体耐震補強工事
---------------	-------------

- ・主な改修工事等

ホール舞台設備更新	ホール客席更新	トイレ新設/改修	シャワー室設置
駐車場新設/改修	受変電設備更新	屋上防水改修	照明設備更新
外壁塗装改修	空調設備更新	内装改修	給排水設備更新
建具改修	会館棟全熱交換器設置	EV 設備更新	太陽光発電設備設置

- ・各所要室の改修案

現 在	改修案	機 能
ロビー	オープンスペース	気軽に立ち寄り、交流ができる空間
展示室	リハーサル室	リハーサルや小規模な発表ができる空間
和室（倉庫）	スタジオ	歌唱、ピアノ、人形劇等の練習ができる空間
講習室	スタジオ	
会議室	多目的室	練習、打ち合わせ、催し物ができる空間
ホール	ホール	舞台芸術の鑑賞、発表ができる空間

◇将来を見据えて

- ・大ホールの整備に当たっては、他施設を含めた市民ニーズ、利用状況、社会経済情勢等も十分に考慮し、中長期的な視点で適正な規模・内容等を検討したうえで整備する。